トランストロン

新たな運転評価で燃費改善

全国運転ランキングでレベル向上

富士通グループのトランストロンは、クラウド型運行支援サービス「ITP-WebService」のオプションサービスとして、「エコアンドセイフティ 運転評価」と「エコアンドセイフティ 全国運転ランキング」を追加した。情報機器事業推進部の酒井健二氏は、「既にエコドライブに取り組まれていても、さらに燃費を向上させる契機になる」と新機能に自信を見せる。

基本となるのは「E&S指数」という新たな考え方。同氏はこれまでのデジタコの点数制度について、「ユーザーごとに速度などの『しきい値』を設定し、それを超えたら減点されるというもののだった。点数の良し悪しは、その値をどのレベルに設定するかに大きく左右される」と指摘。そこで同社では新たな指数評価を採り入れることにしたという。

ランキング画面（提供写真）

同指数は、「理想的」とされる運転がグラフ上で描く速度曲線と、実際の運転が描く速度曲線との「差」を数値化し、運転全体を評価するもの。

情報機器営業部の松永まり子氏は「ブレーキやアクセルの状況を詳細に分析し、数字を積み上げていく。理想と現実との差が小さければ小さいほど評価が高い」と説明。もちろん、「どの地点で良くない運転をしたかなどを地図上で見られる機能も用意している」。「運転評価」の利用料金は車両あたり月額1050円。

また、このサービスを利用している他社のドライバーの順位も一覧で表示する「全国運転ランキング」も開始。酒井氏は、「省燃費運転をしていると思っていても、全国的に見ると『実はあまり良くない』ということもあるはず。よりレベルアップを図るための材料にしてほしい」と話す。

ランキングは運行時の速度帯別に出る。「低速帯であれば、点数が悪くなる原因は急発進、急停止などと、速度帯別にすることで重点的に気をつけるべき項目が分かる」という。松永氏は、「これまで会社ごとに評価がバラバラだったものを、統一基準で比較できるのがポイント。ドライバー同士で競い合い、より安全、よりエコな運転を心掛けてほしい」と訴える。利用料金は同315円。

松永氏（左）と酒井氏

酒井氏は両サービスの最大の目的を「燃費向上」とし、「トライアルで導入された会社では、デジタコを導入していたにもかかわらず、燃費が8%向上したという結果も出ている」と胸を張り、「さらなる燃費改善の切り札として、ぜひ導入していただきたい」と語る。

（大西友洋）